

著作権

カラー百科シリーズ

**新**岩手きのこ百科

岩手菌類研究同好会

保 護

 岩手日報社

## はじめに

1988 (昭和63) 年9月、『岩手きのこ百科』が発行され、岩手県民の皆様にご活用いただき約30年が過ぎました。この間、度々改訂をして内容を新しくしてきました。

しかし近年、菌類の研究が進み、このほど『新・岩手きのこ百科』として新たな書籍発行の運びとなりました。キノコの分類はこれまで、形が似ているものを集めた形態的分類でしたが、現在はDNA等による生命進化を表す分子系統学的手法の分類が行われ、キノコの分類が大幅に変わったためです。

例えばホコリタケのグループ (腹菌類=子実体の内部に担子胞子を作る球状キノコ) が解消され、多くはハラタケの仲間やイグチの仲間に分類されました。分類の形態が変わったことにより多くの科が追加されましたが、皆様におなじみのマイタケは所属科がまだ確定しておりません。

さらに今回の出版の大きな要因になったのは、毒キノコの研究が進み、毒成分が判明してきたことによります。2004 (平成16) 年にスギヒラタケを食べた方が急性脳症で死亡した事例は広く報道されました。ほとんどの方は腎臓病を患っていたといわれています。また、今までは食菌といわれていたキシメジ (キンタケ) ・シモコシの近縁種で、ヨーロッパで死亡例が報告されたため、今回は毒キノコに分類しました。ほかにも毒成分が判明したものがありますので、本書を参考にさせていただきたいと思います。

食べられているキノコの中にも、人によっては食中毒を発症した報告例があったものには「要注意」の表示をしました。

特に注意していただきたいものにホウキタケがあります。ホウキタケは柄の部分の白くしっとりし、サンゴ状に分岐し先端がピンク色で、触れても変色しないものとされています。ところが岩手では、ハナホウキタケ類もホウキタケと言われております。本書には掲載していませんが、自然界にはホウキタケに似たさまざまなキノコが発生しています。弱い毒性を持っているものもあり注意が必要です。

最後に、食べられるキノコでも十分な加熱が必要であり、過食しないようお願いいたします。

2015年8月

岩手菌類研究同好会会長

吉田 勝治

## 目次

はじめに	3
毒	5
食	67
食毒不明・食不適	213
索引	305
「キノコによる食中毒」について	316
参考文献	318
岩手菌類研究同好会 会員名簿	319

毒



シロタマゴテングタケ



キシメジ科

## ドクササコ

**猛毒**

**発生時期** 9月～10月。

**発生場所** 笹やぶや竹やぶ等に群生する。

**特徴** 岩手には発生例が無いといわれていたが、杉林に発生していた。傘の大きさ6～10cmぐらい。表面黄褐色でヒダは茎に垂生し、じょうご状になる。

誤食すると4～5日してから手足の指先がはれて激痛が1カ月以上も続くという残酷なキノコ

である。

# 毒作権

所属科未確定

## スギヒラタケ

### 毒

**発生時期** 9月～10月。

**発生場所** 杉の切り株や倒木等に群生する。

**特徴** 2004年、秋田、山形、北陸地方で十数人がスギヒラタケを食べ急性脳症になり死亡した。スギヒラタケは昔から一般に食用にされてきたキノコであるが死亡した人たちは人工透析を受けていた。スギヒラタケにはシアンが含まれているが健康な人の体内に入っても腎臓

などの細胞に含まれているロダネーズという酵素により無毒にされる。最近、腎機能が正常な人の死亡例も報告されている。透析を受けている人や腎臓に疾患のある人は食してはいけない。



クロタマゴテングタケ

テングタケ科

## クロタマゴテングタケ

毒

**発生時期** 8月～10月。

**発生場所** アカマツ、クヌギ等の混生林内地上。

**特徴** 傘8～10cm。暗灰色で中央部はほとんど黒色である。ヒダは白色で密。全体が淡色の繊維状の鱗片に覆われている。ツバは膜質で灰色。ツボは白色で袋状になっている。

小型のクロタマゴテングタケ(毒)の発生も見られる。



テングタケ科

## シロタマゴテングタケ

方言：ブスキノコ

### 猛毒

**発生時期** 8月～10月。

**発生場所** アカマツ、コナラ、ミズナラ等の混生した林内地上。

**特徴** 全体が白色で、肉もヒダも白く密。傘8～10cm。莖も白色で絹のような光沢があり、上方が細く、根元は球根状に膨らみ、白いツボがある。莖の上方にはっきりしたツバがある。

同じ白色で猛毒のドクツルタケとよく似ているが、シロタマゴ

テングタケの方が、きゃしゃな感じ。

**中毒症状** 食後5～6時間後から症状が出始め、その後、嘔吐、下痢、胃痛などの症状とともに、意識が薄れ、コレラのような脱水症状を示す。中毒後2～5日で死亡する。

昭和33年、岩手郡玉山村(現盛岡市)で一家6人中4人が死亡した例が報告されている。





テングタケ科

## ドクツルタケ

方言：ドクキノコ、ドクモダシ、シロブスキノコ

### 猛毒

**発生時期** 8月～10月。

**発生場所** 広葉樹林の林内地上に点々と発生する。

**特徴** 純白色の大型キノコで、傘8～15cm。傘、茎ともに白色。膜質のツバと袋状のツボがある。

**シロタマゴテングタケ(猛毒)**  
に非常に似ているが、茎のツバの下に繊維状のササクレがあるので区別される。

幼菌はツクリタケ(食=ハラ

タケ科)に似ているが、ツクリタケにはツボはなく、ヒダがピンクから黒褐色に変わる。

**中毒症状** 刺激臭はなく、シロタマゴテングタケ同様、消化器系に異常を起こし、コレラ症状が続き死に至る。

# 著作権

テングタケ科

## タマゴテングタケ

方言: プスキノコ

### 猛毒

**発生時期** 8月～10月。

**発生場所** プナ等の広葉樹林内地上。

**特徴** 傘7～14cm。テングタケ科の特徴のツバとツボを持ち、オリーブ色。肉は白色。ヒダは密で白色。茎の表面は多少ササクレ状で中実、のち中空となる。ツバ、ツボも白色。

**中毒症状** 地味な色のキノコだが、猛毒である。ドクツルタケ、シロタマゴタケ同様コレラに

似た症状を起こす。死亡例もある。



テングタケ科

## タマゴタケモドキ

**猛毒**

**発生時期** 9月～10月。

**発生場所** マツ、クヌギ、ブナ等の混生林内地上。

**特徴** 傘6～8cm。丸山形から開いて平らになる。黄色か橙黄色、周縁部にかすかに条線を現し、湿っている時は粘性がある。ヒダは密で白色。茎は黄色、中実で膜質のツバがあるが、脱落しやすい。ツボは白色の膜質で深い袋状になっている。死亡例のあるキノコなので

食用のキタマゴタケと間違わないように注意しなければいけない。

テングタケ科  
シロウロコツルタケ(フクロツルタケ)

**猛毒**

**発生時期** 6月～10月。  
**発生場所** 広葉樹やマツなどの針葉樹林内地上。

**特徴** 傘5～9cm。鐘形から平らになる。表面は滑らかで淡褐色。その上に粉状の鱗片と大きなツボの破片がつく。

肉は傷つけると紅変する。ヒダは白色ないし淡い紅色。茎にも傘と同じ鱗片があり、中空。袋状の厚く丈夫な膜質のツボがある。

死亡例のある猛毒菌である。



テングタケ科  
タマシロオニタケ

**猛毒**

**発生時期** 8月～10月。  
**発生場所** 広葉樹、赤松の混生林内の地上に発生する。

**特徴** 傘は8～14cmぐらい白色で丸山形から平らに開く。表面にトゲ状イボがある。茎は15～20cmぐらいで上部に白色のツバがあり根元は球状に膨れている。

猛毒で死亡例がある。





モエギタケ科

## ニガクリタケ

方言：ニガモダシ、ニガタケ、ニガコ

### 猛毒

**発生時期** 5月～11月。

**発生場所** スギなどの針葉樹や広葉樹の切り株、倒木、枯れ幹などに束生する。

**特徴** 傘2～3cm。丸山形から開いて平らになる。硫黄のような黄色で中央部が濃い。苦味がある。茎は中空で傘と同色、下半分は橙褐色、上部にツバの跡がある。

食菌のクリタケに似ている。

**中毒症状** 誤食すると、初め舌

がピリピリして激しい嘔吐とけいれんが起こり、次第に意識不明となり、死亡することもある。